

『アドベンチャーコミュニケーションコース』 資料

コンセプトと導入の背景

大学のビジョンとミッションの確認

<ビジョン>  
一人ひとりが言葉を通じたコミュニケーションにより、お互いを認めあい尊重しあう、あたたかな世界をめざします。

<ミッション>  
世界の言葉と文化を理解し、柔軟な心でコミュニケーションできる人。思いやりの輪を広げ、世界の人々を笑顔にできる人。  
神田外語大学から、世界へ羽ばたかせます。

青字部分

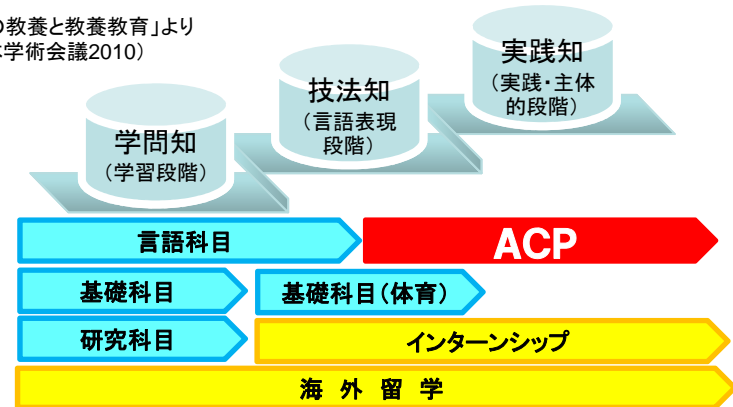
言語運用能力、言葉の魅力などは、語学の授業で習得。世界の文化などは研究科目などで習得。その他、コミュニケーション「論」などは授業を開設中。

赤字部分

一部の学生は、留学などで習得しているが、一部にとどまる。授業では「論」を教えている（＝頭では理解している）が、実践の場は体育などに留まり、相対的に少ない。

KUISが開講している科目分類

「21世紀の教養と教養教育」より  
参考（日本学術会議2010）



アドベンチャーコミュニケーションプログラム  
Adventure Communication Program(ACP)

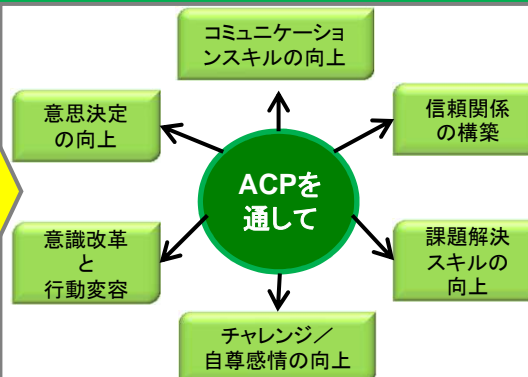
(『アドベンチャープログラム』をベースとしています)  
参考HP <http://www.pajapan.com/>

実践と今後の展開方法

PAがもたらす成長と変革の3つの要素

- ① Experiential Learning Cycle  
【体験学習サイクル】  
(目標設定)→体験→振り返り→一般化→試験運用→実社会への応用→体験
- ② Full Value Contract(FVC)  
【フルバリューコントラクト】  
受講前の約束事、受講者の努力を最大限尊重する。
- ③ Challenge By Choice(CBC)  
【チャレンジバイチョイス】  
挑戦への選択の自由が常に保証されている。  
挑戦レベルとその方法は自分自身が決定します。

ACPで期待される効果



様々なスタイルに応じた展開

- ① 授業科目(ACP)
- ② 留学生と日本人学生における交流プログラム
- ③ Freshman Englishの一部授業において
- ④ 英語/日本語スモールグループコミュニケーション論の一部授業において
- ⑤ ゼミ、演習
- ⑥ 教職課程希望向けプログラム
- ⑦ 授業受講者、体験会参加者を対象に、学生指導者養成を実施し、学生スタッフとして活動
- ⑧ その他  
・他大学との連携

ハイレメント

…地上から高い位置にあるロープコース(ハーネスを着用し、チームビレイシステムで安全を確保する)

4種4基



パンパーポール



手つなぎトラバース



キャットウォーク

・高い  
・集団として熟成

ローエメント

…比較的地面に近い所に設置されたロープコース(人が安全を確保する)

11種17基



電柱でござる



モホークウォーク



大脱走

- ・チャレンジレベル
- ・グループ凝集性
- ・シークエンス
- ・コミュニケーション
- ・課題解決レベル

ゲームグッズ

…ゲームグッズを用いて、様々なゲームアクティビティの展開が可能

・低い  
・形成期



ラバーピッグ/ラバズチキン



番号付きスポットマーカー



フリースボール